

第1回: ポストケインズ派経済学とは何か —主流派経済学と非主流派経済学

担当者: 佐々木 啓明*

2010年4月13日

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

—はじめに—

- 新古典派経済学に対する批判は数多いが, 批判ばかりで代替案を示していない.
- ポストケインズ派経済学は新古典派経済学に対する代替案を示す.

ポストケインズ派経済学を体系的にまとめた学部向けの教科書がなかった. ラヴォアの教科書はその意味で画期的な試み.

†ケンブリッジ「資本論争」について

イギリス陣営: ロビンソン, カルドア, パシネッティ vs. アメリカ陣営:
サミュエルソン, モジリアーニ, ソロー

→ イギリス陣営の勝利だったはずなのに...

—ポストケインズ経済学から得られる命題—

1. 有効需要の増大は必ずしも価格の上昇につながらない.
2. 最低賃金・実質賃金の増大は失業の拡大につながらない.
3. 実質賃金の増大は利潤を低下させない(費用の逆説).
4. 貯蓄率の低下は投資と経済成長を低下させない(儉約の逆説).
5. 価格の伸縮性は経済を安定化させない.
6. 財政赤字はインフレーションも利子率も増加させない.

→ いずれも新古典派経済とは逆の命題.

—ポストケインズ派という学派—

ポストケインズ派は多くの非主流派の1つ.

→マルクス派, スラッフア派(ネオリカード派), 構造学派, 制度学派, レギュラシオン学派, シュンペーターリアンなどの非主流派がある.

J. M. ケインズに影響を受けている.

ケンブリッジ学派からも影響を受けている.

†ニューケインジアンとの違いについて

彼らは新古典派の分析ツールを用いる.

短期的では硬直価格, 長期的では伸縮価格.

—主流派と非主流派の違い—

Table 1: 主流派と非主流派における前提条件の違い

前提条件	パラダイム	
	非主流派経済学	主流派経済学
認識論	現実主義	道具主義
存在論	有機体主義	個人主義
合理性	手続き的合理性	独立的合理性
分析の焦点	生産と成長	交換と希少性
政治的中心	国家の介入	自由競争市場

現実主義と道具主義

仮説は現実的であるべき \iff そうでなくともよい

有機体論と方法論的個人主義

個人は社会的存在である \iff 代表的個人

手続き的合理性と独立的合理性

個人は慣習・習慣に基づく行動 \iff 最適化行動

生産と希少性

不完全利用・不完全雇用 \iff 完全利用・完全雇用

市場に対する見方市場メカニズムを疑問視 \iff 市場メカニズムを信頼